

## 2013年 富士山 BC スキー記録

(記 鳥切昇治)

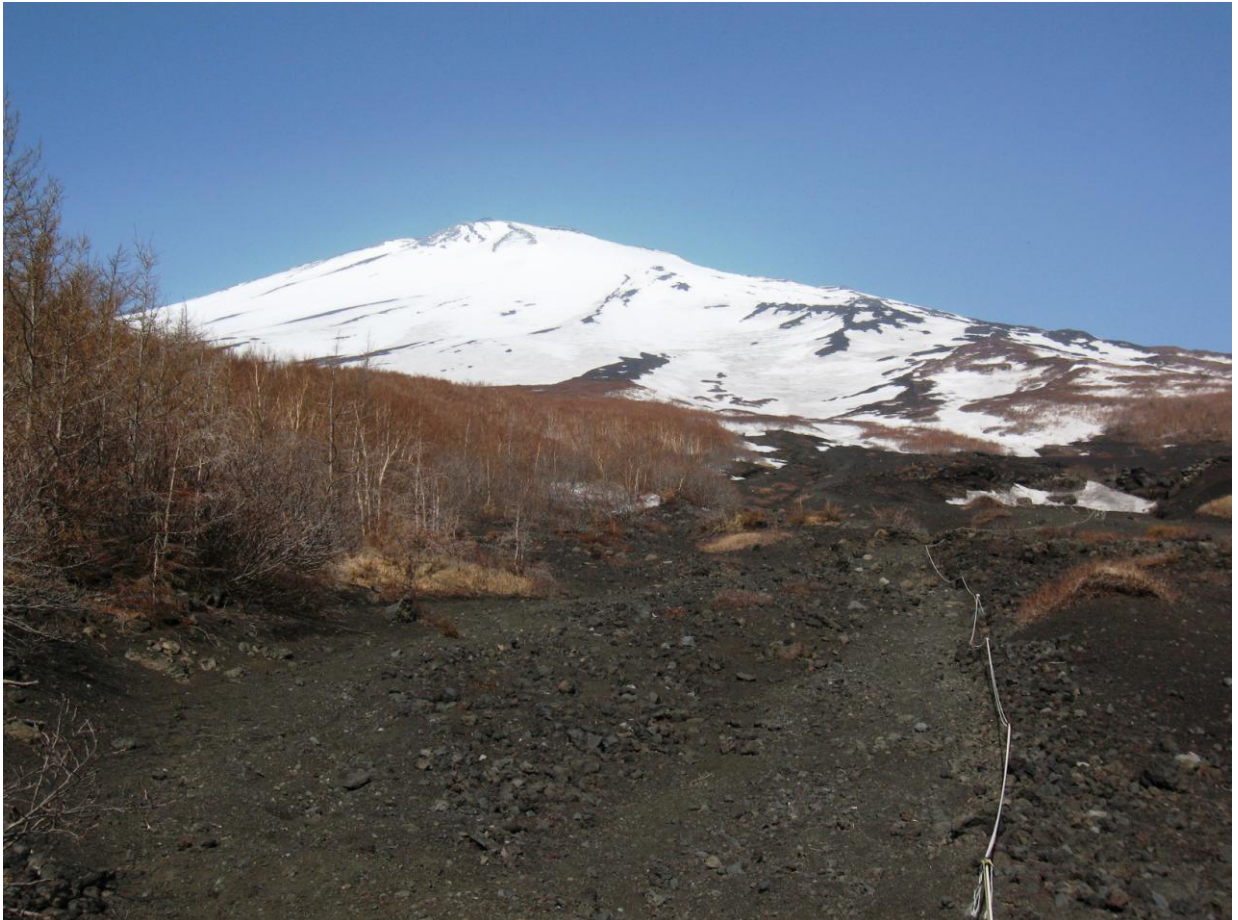
期 間:2013年5月14日(火)

場 所:富士山 須走口

メンバー:鳥切 昇治(73才)単独

行動記録

富士山のバックカントリースキーは今回で4回目。昨年は残念ながら頂上まで登ることが出来なかったため須走口から再チャレンジを試みた。時間はかかりましたが頂上まで登り無事滑る事が出来た。



須走口砂払五合目から5月14日の富士山

5月14日(火) 天候:晴

曇り空で見えなかった富士山が須走まで来ると雲が切れて姿を見せる。雪が少なそうな感じ。ふじあざみラインの新緑の中を走り、須走口五合目の駐車場に着いた。ここの標高は2000m。カラマツが芽吹き始めている。茶店の山小屋がもう開いていた。支度をしてスキーを担ぎ登山道を登る。この時期、駐車場の脇からブル道を避難小屋に登り、砂払五合目に登るのが良さそうである。(兼用靴だと道が柔らかいので楽だと下山時に感じた)登山道の下山道標識を確認して下山道に入る。昨年は直ぐに雪溪に出たが今年は雪が全くない。砂払五合目まで登る。吉野小屋は建て替える様で建物が取り壊され、基礎が出



須走口五合目から富士山



砂払五合目の山小屋は建て替え中

来ていた。

振り返ると山中湖を左手に丹沢、箱根が霞んで見える。更に20分程登ると登山者が一人下山して来た。登山道の途中でテントを張り頂上に登って下山して来たとのことである。

雪渓末端でシールを着け、登り始める。火山灰で汚れた雪と綺麗な雪の模様の中を単調な登りが続く。風もなく暖かい。雪面はシール登りに丁度良い状態である。誰もいない斜面を黙々と登る。大斜面を二ピッチ登ってから右の夏道の方へトラバース気味に登る。上の方を見ると、山小屋の下を2人がスキーを担いで登っている。吉田口の方から登って来た様だ。

夏道沿い近くを登って行くと下から2人のパーティがスキーを担いで登って来る。昨年引き返した地点



九合目付近から頂上を見上げる

先行していた4人は既にいなかった。昼食を食べ、滑降の準備をし、自宅に電話したり、写真・ビデオを撮っていたら1時間が過ぎてしまった。

若い二人が登って来た。ボーダーの男女で吉田大沢を滑ると言う。写真を撮ってもらう。



砂払五合目から山中湖



これから登る上部を見上げる

を越えた。頂上の建物に手が届く所まで来た。雪面が硬くなり、スリップしそうになり、クローを着けるか迷ったが、スキーを外しアイゼンに履き替えることにする。ザックを流されないようピッケルで確保する。

アイゼンで登り始めたが兼用靴だと足首が曲がらないため斜登りで登る。外人の女性が危なっかしい歩き方で下りて来た。狛犬と鳥居をくぐり頂上浅間神社奥宮に着いた。



頂上の狛犬と鳥居



久須志神社前で



久須志神社脇から剣ヶ峰



頂上からご機嫌で滑って来た

頂上の山小屋の前を通り下山道下り口から滑降を開始する。右下へ斜滑降し、大斜面に出る。慎重に滑り始める。ザラメ雪の表面が薄くフィルムクラストした感じの雪でターンし易くご機嫌で滑る。下の方はガスが時折湧いて視界が遮られるので下る方向を間違えないよう注意しながら滑る。



ガスが時折湧いて視界が遮られる



雪溪末端も近い

下の方に来ると雪が重くなり滑り難い。右側のダケカンバの灌木の方に滑った跡があるので、誘われる様に滑って行くと雪溪末端に着いた。男女5人のボーダー・スキーヤーがいて、スキーの片付けをしていた。頂上まで行かずに滑って来たと言う。5人は先に下って行った。

スキーをザックに付けて下山道を下る。20分程下ると砂払五合目で更に下ると避難小屋の所に出る。昨年はこちらまで滑って来たのに。火山灰のブル道を五合目駐車場まで下る。駐車場脇の沢に水が流れている。幻の滝の標識があるので出現している様だ。スキー、靴、ザックを車に積み込み、着替えてから帰路に着く。

コースタイム

実家 5:29—6:10 須走口五合目 6:29—7:27 砂払五合目 7:38—8:00 シール装着 8:15—(9:00～～9:10) (10:02～10:10) (11:00～11:10) (12:05～12:10)—13:15 アイゼンに履き替え 13:30—13:50 頂上浅間神社奥宮 15:00—15:20 滑降終了点 15:39—砂払五合目 16:00—16:24 五合目駐車場 16:51—(大井松田ICから横浜町田ICまで東名高速)—18:35 自宅

以上